

サーバ技術仕様・制限等

- 1 札幌市公式ホームページの基本方針・ガイドラインに準じたコンテンツを作成すること。

【札幌市公式ホームページの基本方針・ガイドライン】

<https://www.city.sapporo.jp/koho/hp/guideline/index.html>

- 2 テキスト、イラスト、画像等の配置を検討し、HTML、CSS、スクリプトのコーディングを行う。

なお、HTMLのコーディングにあたっては特定ブラウザに依存するタグを使用してはならない。

また、セキュリティホールとなる恐れのあるコーディングを行ってはならない。ぜい弱性に対する対策を確実に行うこと。

安全なウェブサイトの作り方については、IPA掲載の情報等を参考にすること。

<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/websecurity.html>

- ③ サーバの利用制限

ウェブサイトは、札幌市が指定するサーバ等に構築するため、下記のとおり制限があることに留意すること。

【全サーバ共通】

ア サーバ環境は、以下のいずれかを利用できるものとする。ただし、ソフトウェアのバージョン等は変更となる場合があるため、設計の段階で最新の情報を確認すること。

	htmlサーバ (www)	aspサーバ (www3)	cgi/phpサーバ (www4)
OS	Windows server 2016 64bit版	Windows server 2016 64bit版	Red Hat Enterprise Linux 9.2
Web サーバ	IIS 10.0 (32bitモード)	IIS 10.0 (32bitモード)	apache 2.4.53 Perl 5.32.1 PHP 8.0.27
次回サーバ 再構築予定	未定	未定	未定

イ コンテンツは、ファイルをサーバに配置するのみで公開可能なものとする。サーバの設定変更（環境変数の設定等）及び新たなアプリケーションのインストールは行えない。なお、ファイルの配置は委託者にて実施する。

ウ サーバへのファイルアップロードを行う仕組みは禁止する（※wwwサーバ及びwww4サーバ（php）では設定により禁止している）。コンテンツファイルの配置には既存の仕組みを利用するため、HTMLファイルアップロード等の仕組みの構築は不要である（禁止）。ただし、www4サーバ（cgi）若しくはwww3サーバにて市職員がイントラネットPCからデータファイルをアップロードする機能は可能。

イントラネットPC以外（インターネット）からアクセス可能な管理用ページ等の作成も禁止とする。

エ 特殊な拡張子のファイルは公開できないことがあるため、利用できるかどうかについて疑義がある場合は、設計の段階で確認すること。（MIMEタイプの追加は行えない。）

オ インターネットからの通信はHTTPS（HTTP + SSL/TLS）とする。

カ HDD使用量の制限は特に設けていない。ただし、1GB以上の使用が想定される場合は、事前にシステム調整課の承諾を得ること。

キ 画像を扱う場合は、インターネットでの公開に適したサイズ・画質となるよう、調整すること。またpdfファイルについても、極力小さいサイズとすること。（最大でも5MBとする。）

ク 同一コンテンツ内のファイル参照は、絶対参照ではなく、ルート相対参照若しくは相対参照とすること。（サーバ名変更時の影響を最小限に抑えるため。）

ケ メンテナンス作業や機器更新作業のため、最大半日程度停止する可能性がある。よって、無停止を前提としたコンテンツは公開できない。

コ 動画、音声ファイルはYoutubeで公開すること。

【htmlサーバ(www)のみ】

ア すべての静的コンテンツが外部に公開される。

イ サーバ側でプログラム、スクリプト等の処理を実行するコンテンツ（php、asp、cgiなど）は公開できない。

【aspサーバ(www3)、cgi/phpサーバ(www4)共通】

ア コンテンツの更新は、イントラネットから中間サーバにアップロードすることで、15分間隔で中間サーバから各本番サーバに同期される。プログラムやスクリプトが作成／更新するファイルがあれば、同期処理で削除されないよう、同期禁止フォルダに配置すること。

イ イントラネット（庁内の仮想ブラウザ）からのみアクセス可能とするコンテンツは、所定のディレクトリに配置すること。

ウ ディレクトリのパーミッションは原則「-rwxrwxr-x(775)」とする。

エ データを蓄積する仕組みを構築する場合、aspサーバについてはmdb、cgi/phpサーバについてはcsvを設置する等の方法を用いること。データベース等のアプリケーションをインストールすることはできない。

オ ブラウザ経由でファイルを更新する仕組みを用意する場合は、そのデータを格納するための専用のフォルダを設けること。ただし、コンテンツの更新を目的としたページ（管理ページ等）を設けることは禁止とする。

カ メールを送受信する仕組みは構築できない。

キ ファイル名やフォルダ名には半角英数字、ハイフン（-）、アンダーバー（_）で構成すること。詳細は本市公式ホームページガイドラインを参照。

ク SQLインジェクション対策などセキュリティ対策を実装すること。

ケ サーバ再構築により、OSやWebサーバソフト等が新しいバージョンに変更となる時期を把握しておくこと（事前検証や移行作業が発生する）。

【cgi/phpサーバ(www4)のみ】

ア 文字エンコード設定はUTF-8とする。

イ PHPによるファイルアップロードは不可としている（機能無効）。

ウ ディレクトリに個別の所有権は割当てできない。

エ ディレクトリに個別のapache設定ファイル（.htaccess）を配置することはできない。

オ その他、CGI/PHPについては一部利用制限があるため、利用可否について疑義がある場合は、設計の段階で確認すること。（PHPについては、「phpinfo.txt」参照）